

IV-47 市民参加による「のしろ黒松街道」整備に関する一考察

秋田工業高等専門学校 学生員 長木谷友也

秋田工業高等専門学校 正 員 折田 仁典

1. はじめに

昨今では地域住民の都市づくり、道づくりあるいは河川の整備など多岐にわたる居住環境の整備への参加が見られるようになってきた。このような現象が活発化した背景には、都市計画法、河川法の改正にみられるように、住民参加を促進する法制度の整備に加え、住民側も自らの居住空間整備に積極的に取り組もうとする気持ちがめばえてきたことが挙げられる。まちづくりNPO、あるいはボランティア活動もその一端である。ところで、このような住民参加で実施される計画策定も、計画手法は確立されておらず、各地で様々な試行錯誤が行われているのが現状である。

本調査、研究はこのような社会的背景の基で地域住民のボランティアと行政が協力して日本一の「黒松街道」を整備している事例について参加住民の意識構造ならびに期待される整備効果に関して分析を加えたものである。

2. 「のしろ黒松街道」および調査の概要

黒松並木の整備箇所は、能代市国道7号線バイパスである。ここは、写真-1に示すように、植樹帯が備わっている。今回整備対象とした区間と隣接する歩道約1.3kmには、平成11年に国土交通省能代工事事務所がすでに黒松を植樹しており、残りの3.5kmを市民ボランティアと市、国土交通省が一体となって、平成12～13年の2ヶ年で整備しようとするものである。写真-2は、ボランティアの参加による植樹風景を、また写真-3は植樹完成後を示している。なお、「のしろ黒松街道」の名前は、公募により決定したものである。

調査は、平成12年10月、この「のしろ黒松街道」の整備の一環である植樹祭に参加したボランティアを対象に行った。調査票は、留置自記入法を採用し、能代青年会議所の会員の協力を得て配布、郵送回収とした。調査票の回収結果は、配布150票、回収66票で回収率は44%であった。

調査項目は、今後の生活環境整備におけるボランティアの負担金意識の調査、完成後の「のしろ黒松街道」の評価、および整備手順についてなどである。

3. 「のしろ黒松街道」の整備効果

表-1はのしろ黒松街道の整備の評価について数

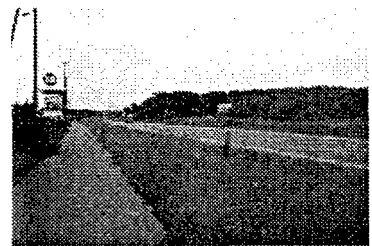


写真-1 植樹前



写真-2 ボランティアの参加状況



写真-3 植樹後

量化理論第Ⅱ類を適用し、要因分析を行ったものである。評価項目は表に示す14アイテム、外的基準は「総合的にみたのしろ黒松街道の整備効果」であり、カテゴリは「非常にそう思う」「いくらかそう思う」「そうは思わない」の3段階評価とした。分析結果をみると、「のしろ黒松街道の整備効果」に最も影響を与えているのは「並木道周辺の景観が良くなると思う」であり、次いで、「整備された道路に愛着、親近感を持つようになると思う」であった。すなわち、ボランティアの人々は街道整備効果は、景観や環境のイメージの向上、さらには地域全体のイメージアップと関係が強いと認識しているようである。

表-1 のしろ黒松街道の整備効果の要因分析

のしろ黒松街道の整備効果			のしろ黒松街道の整備効果		
カテゴリ	係数	レンジ	カテゴリ	係数	レンジ
(1) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	0.7254 -0.5513 (0)	0.5513	(8) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	0.3564 -0.7038 (0)	0.5567
(2) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	-0.8642 -1.5643 (0)	1.5643	(9) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	1.1660 0.5058 (0)	1.6660
(3) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	1.7463 -1.5834 (0)	1.7463	(10) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	0.1474 0.0765 (0)	0.1474
(4) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	-0.7509 0.7673 (0)	0.7509	(11) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	-0.9170 -1.7211 (0)	1.7211
(5) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	0.0501 0.1832 (0)	0.1832	(12) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	0.7292 -0.3610 (0)	0.7292
(6) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	0.6455 0.5395 (0)	0.6455	(13) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	1.5476 1.5328 (0)	1.5476
(7) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	0.1575 0.7570 (0)	0.7570	(14) 非常にそう思う いくらかそう思う そうは思わない	-0.8878 -0.3508 (0)	0.8878
相関比			0.8158		

評価項目（アイテム）

- (1) ボランティア活動の育成に役立つと思う
- (2) 能代市のイメージが良くなると思う
- (3) 並木道周辺の景観が良くなると思う
- (4) 住民同志のコミュニケーションが活発になると思う
- (5) 交通安全性が向上すると思う
- (6) 地域に親近感、愛着を持てるようになると思う
- (7) 能代の知名度が向上すると思う
- (8) 「風の松原」に並ぶ名所になると思う
- (9) 観光客増加に役立つと思う
- (10) 以前よりも公共事業に関心を持てるようになると思う
- (11) 沿道周辺のイメージが良くなると思う
- (12) 沿道周辺の開発が促進されると思う
- (13) 整備された道路に愛着、親近感を持つようになると思う
- (14) 道路へのポイ捨てが減少し、道路の美観が保たれるようになると思う

4. ボランティアの支払意志額について

ボランティア活動の一環として「のしろ黒松街道」の整備に対し、どの程度の資金のカンパができるかを質問した。図-1は、ボランティアの具体的な負担金意識について示したものである。ボランティアの支払意志額については、20代の若者層で負担金に関して消極的な姿勢が強いが、全体では、約64%が金銭的支援に賛成している。その支払意志額は、1000~3000円が多い。なお、実際にはかなりのカンパが集まっている。

5. まとめ

「のしろ黒松街道」の整備は、前年度のパブリックインボルブメント（PI）導入による歩道整備の黒松の植樹に引き続く事業であるが、今回は（社）能代青年会議所が中心となり、行政（国土交通省能代工事事務所、能代市）が支援するボランティア活動で進められた。市民のボランティア参加意識も高く、また、金銭的支援も賛成が多い。また、整備効果への期待も大である。整備目標区間は、全体で4.8kmで、完成すれば黒松並木としては日本一となることから、その完成が待たれている。

【参考文献】

石塚未来、折田仁典「パブリックインボルブメント導入による歩道整備に対する地域住民の評価」、土木学会東北支部技術研究発表会、pp534~535、平成11年度

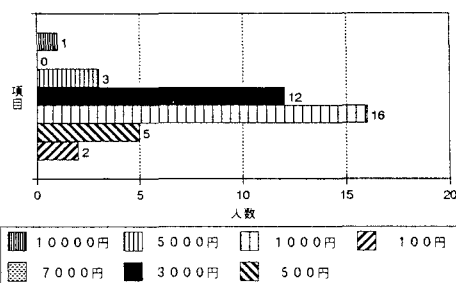


図-1 ボランティアの具体的な負担金意識